

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



GHE024-P01

会場:コンベンションホール

時間:5月22日 10:30-13:00

寺田寅彦と地磁気研究：エンジニアリング デザイン教育への展開

Torahiko Terada's study on geomagnetism: Toward the expansion into engineering design education

成行 泰裕^{1*}, 福田 武志¹, 細川 光洋²

Yasuhiro Nariyuki^{1*}, Takeshi Fukuda¹, Mitsuhiro Hosokawa²

¹ 高知高専・電気情報, ² 高知高専・総合科学

¹EE, KNCT, ²IAS, KNCT

科学技術の本質を捉えるには、現在の体系とともに、その成り立ちを知ることが重要である。蓄積された科学の知識をその時代の文化や政治、社会環境の過程を踏まえて学ぶことにより、現代の科学や工学をより深く理解することが出来る。本研究は寺田寅彦の地磁気に関する研究の科学史面からの再評価を行い、寅彦を軸としたエンジニアリングデザイン教育について議論することを目的としている。

寺田寅彦はいわゆる「理系」でありながら「文系」にも秀でた天才で、物理学者、随筆家、俳人として名を残している。特に「寺田物理学」と呼ばれる日常周辺の現象を扱った研究は彼の文学作品とも深く結びついており、西洋式の科学が日本に根付き始めた時期の日本人の科学意識を「機械的」に利用する態度とは対照的である。実際、寺田寅彦の研究は、初期にはX線物理学などの西洋的な物理学も対象としていたが、後期には地球物理学などにその関心が移っていき、発想独創的なものになっていった。寺田寅彦が地磁気の研究を行っていた時期はちょうど研究対象を転換する遷移期にあたる。それにもかかわらず、寺田寅彦の他の研究と比べるとこれまであまり注目を集めてこなかった。

そこで、本研究では寅彦の地磁気研究の、寅彦個人の研究史、日本における地磁気研究史それぞれの位置づけについての考察を行う。さらにそれを踏まえて、科学史を用いた教育を寺田寅彦を軸に展開した場合の論点の明示を試みる。

キーワード: 寺田寅彦, 地磁気, エンジニアリングデザイン

Keywords: Torahiko Terada, geomagnetism, engineering design